

# 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林整備費

## 事業名 林業安全衛生対策強化支援事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林整備課 担い手企画係 電話番号：058-272-1111 (内 3197)

E-mail： c11515@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 11,412 千円 (前年度 15,000 千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	15,000	3,464	0	0	0	0	11,536	0	0
要求額	11,412	3,437	0	0	0	0	7,975	0	0
決定額	11,412	3,437	0	0	0	0	4,500	0	3,475

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

令和元年の林業における労働災害の発生頻度は全産業中で最も高く、全産業平均の 9.5 倍と極めて高い状況にある。

労働災害を減らすためには組織的な安全管理が必要だが、林業事業体が個々にどのような安全管理対策をとっているか不明なため、施策が立てづらい状況である。

労働災害の減少に向けて、林業事業体組織としての安全管理体制の見直しと、森林技術者の安全意識及び伐採技術を高める必要がある。

### (2) 事業内容

#### ○安全意識の向上

##### 1) 作業現場における労働災害未然防止研修

労働災害未然防止に向けて、労働安全に必要な作業計画の作成やリスクアセスメント導入に必要な知識を学ぶための座学、および災害レスキュー訓練等を実施する。

#### ○伐倒技術の向上

##### 2) 岐阜県伐木安全技術評価会

チェーンソーの操作技術と安全動作を重視している日本伐木チャンピオンシップ(JLC)の基準に準じた評価会を開催するとともに、JLC認定の競技審判員を招いての安全技術講習会を開催する。

### 3) 基礎技術習得のための練習機導入と講習

林業労働死亡災害の約7割がチェーンソー作業中の事故であり、技術不足または危険な作業が原因となっている。そこで、安全技術と安全動作の基礎技術習得のための枝払練習機導入と併せて、伐倒練習機等を活用し簡易に繰り返し基本作業を学ぶことにより、森林技術者の安全技術の向上と林業労働災害の軽減につなげる。

### (3) 県負担・補助率の考え方

県費 10/10 (森林整備担い手対策基金、地方創生推進交付金、森林整備等支援基金、諸収入)

### (4) 類似事業の有無

労働安全巡回指導費補助金 (林災防の労働安全指導員が素材生産等の現場を巡回し、森林技術者を対象に安全指導を行う。)

## 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	7,247	作業現場における労働災害防止研修 1,612 千円 伐木安全技術評価会 5,635 千円
旅費	308	業務旅費
需用費	123	消耗品
役務費	14	通信運搬費
使用料及び賃借料	20	会場使用料
備品購入費	3,700	
合計	11,412	

### 決定額の考え方

財源の一部を一般財源とします。

## 4 参考事項

### (1) 事業主体及びその妥当性

(事業主体) 県

(事業主体の妥当性) 他県と比べて災害発生件数が多く、労働災害減少の取り組みは県が重点的に行うべき必要がある。

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
 厚生労働省の第13次労働災害防止計画では、死傷災害（休業4日以上  
 の労働災害）を平成29年と比較して令和4年までに5%以上減少させる  
 計画目標となっているため、県内の林業死傷者数を令和4年までに  
 50人以下とする。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値 <small>（前々年度末時点）</small>	目 標	達成率
県下の林業死傷者数	55人 (H29)	68人 (H30)		51人 (R1)	50人 (R4)	98%
	(H )	(H )	(H )	(H )	(H )	%

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）  
 岐阜県伐木安全技術評価会の開催（11/21）競技参加者 20名

### （前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果  
 岐阜県伐木安全技術評価会の開催を通じて、競技参加者及び経営者  
 に対して伐木作業の安全性及び正確な作業の重要性の普及啓発を  
 図った。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い      △：必要性が低い	
(評価)  ○	全国の死亡災害の高い割合を占めているかかり木処理作業に関する研修を受けることは、林業労働災害の未然防止につながり、必要性は高い。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価)  ○	長期的視点から、岐阜県における林業の死傷者数は減少傾向にあり、成果があがっているといえる。
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている      △：向上の余地がある	
(評価)  ○	現場で作業をしている森林技術者を対象に実技指導を行うことにより、安全な作業方法を学習することが可能である。

### (今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 岐阜県における林業の死傷者数は減少傾向にあるが、災害の撲滅に向けて、さらなる推進を図る必要がある。
---

### (次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 森林技術者一人一人に安全な作業手順を指導し、安全対策に対する意識の向上を図り、林業現場から災害の発生を撲滅させる。
--